

課題名:プロペンシテスコア解析を用いた急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術における予防的ドレーン留置の臨床的意義に関する検討

<目的および概要>

胆嚢結石症に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術 (Laparoscopic cholecystectomy, LC)における予防的腹腔内ドレーン留置は必ずしも必要ないとされているが,急性胆嚢炎に対する LC における予防的腹腔内ドレーン留置の意義については,十分に明らかにされていない.今回,当院における急性胆嚢炎に対する LC におけるドレーン留置の有無別の手術成績を評価し,その臨床的意義について検討する.

<研究方法>

2017年1月から2021年12月までに当科で行ったLC症例562例中,急性胆嚢炎に対して施行したLC106例を対象とした.ドレーンを留置した90例(留置群)と留置しなかった16例(非留置群)の患者背景,手術因子,また術後アウトカムとして表層SSI(Clavien-Dindo分類 Grade I以上)発症率,腹腔内感染を疑い施行したCT施行率,術後抗生剤投与期間,および術後在院日数を比較検討した.次に,プロペンシテスコアによる1:1マッチング法(PSM)により,背景,手術因子を揃えた各群16例ずつの割付を行い,同様に術後アウトカムを比較検討した.

<研究成果発表>

学会等や誌上での報告を行います.個人名や個人情報が公表されることはありません.

<研究者>

消化器外科:高市翔平 他

<問い合わせ先>

本研究に関するお問い合わせや診療情報の利用を望まれない方は,下記までご連絡下さい.

兵庫県立西宮病院 医事課
電話:0798-34-5151 (代表)